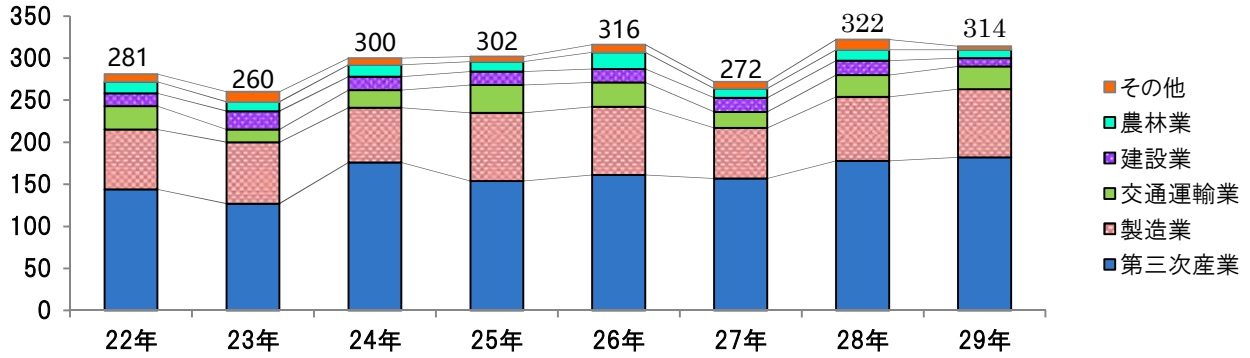


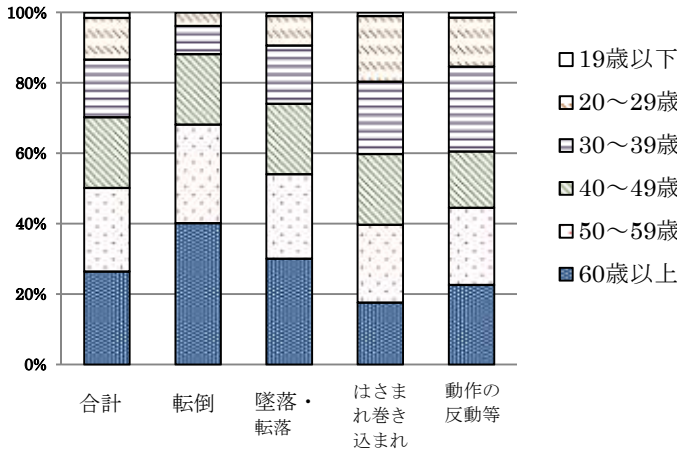
平成 29 年の県下の休業 4 日以上 の死傷者 のうち 「転倒」 災害 はその 21.0% をしめ、事故 の型別 で最多 (「墜落・転落」 20.7%、 「はさまれ、巻き込まれ」 13.7%) となっています。

転倒 災害 を減少 させるため、職場 の総点検 を行い、職場 環境 の改善 に取り組み しましょう。
愛媛 県 の転倒 災害 の推移

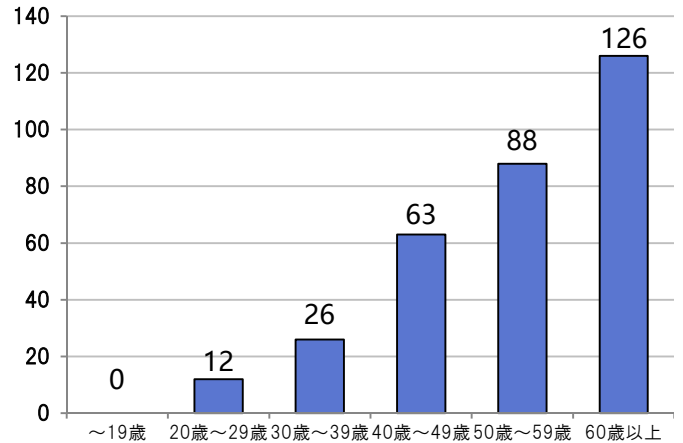


転倒 災害 は、60 歳 以上 の被災者 が 40.1%、50 歳 以上 では 68.2% をしめています。

事故の型・年齢別割合 (H29)



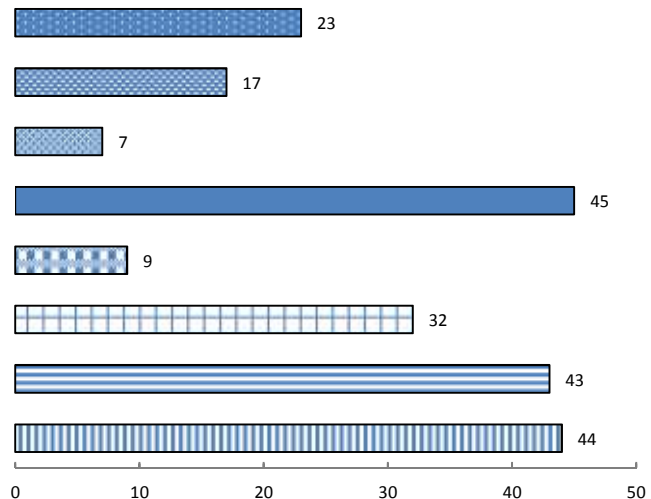
転倒災害年齢別人数 (H29) (314 件)



転倒災害が発生した原因として考えられるもの

転倒災害自主点検結果 (H29.1.1~12.31 (回答数125))

- 身の回りの整理・整頓を行っていなかった。通路、階段、出口に物を放置していた。
- 床の水たまりや氷、油、粉類など、その都度取り除いていなかった。
- 安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていなかった。
- 転倒を予防するための教育を行っていなかった。
- 作業靴は、作業現場に合った対滑性を有し、かつサイズの合ったものを確保されていなかった。
- ヒヤリハット情報を活用して転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していなかった。
- 段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていなかった。
- ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていなかった。



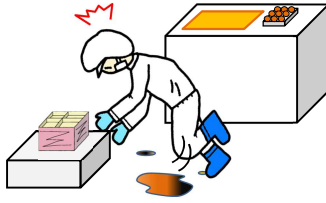
整理整頓、転倒予防教育、危険箇所の見える化、転倒予防運動等に取り組んでください。



転倒災害の種類と主な原因

転倒災害は、大きく3種類に分けられます。あなたの職場にも、似たような危険はありませんか？

滑り



[主な原因]

- 床が滑りやすい素材である
- 床に水や油が飛散している
- ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている

つまずき



[主な原因]

- 床の凹凸や段差
- 床に放置された荷物や商品など

踏み外し



[主な原因]

- 大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態での作業

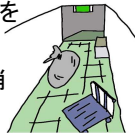
転倒災害防止対策のポイント

転倒災害防止対策により安心して作業が行えるようになり、作業効率が上がります。できるところから少しずつ取り組んでいきましょう。

設備管理面の対策

[4S(整理・整頓・清掃・清潔)]

- ◆ 歩行場所に物を放置しない
- ◆ 床面の汚れ(水、油、粉等)を取り除く
- ◆ 床面の凹凸、段差等の解消



転倒しにくい作業方法

[あせらない 急ぐ時ほど 落ち着いて]

- ◆ 時間に余裕を持って行動
- ◆ 滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行
- ◆ 足元が見えにくい状態で作業しない



その他の対策

- ◆ 作業に適した靴の着用
- ◆ 職場の危険マップの作成による危険情報の共有
- ◆ 転倒危険場所にステッカー等で注意喚起



高齢労働者に配慮した対策を実施しましょう

◇年齢を重ねると災害リスクが高まります

- 年齢を重ねるにつれ、筋力特に脚筋力が衰えるとともに、バランス能力等が低下し災害リスクが高まります。
- 足が思ったように上がっていません。(特に足先) ・少しでもバランスを崩すと派手に転倒してしまいます。
 - 視野が狭まり、上下左右が見えていません。(本人は気付いていません) ・暗いと見えません。
 - 集中力も長持ちしなくなります。 ・機敏な危険回避行動は取れなくなります。
 - 捻挫ですんでいたものが、骨折してしまいます。また、治りも悪いです。

◇高齢労働者の特性に応じた対策が必要です。

- まず災害リスクが高くなっていることを自覚してもらいましょう。教育を実施するとともに、身体的能力のセルフチェックも有効です。(下記ホームページ参照)
- 適切な履物を選択しましょう。(バランスや重さ、足先の形状等に留意しましょう)歩行方法なども教育しましょう。
- 少しの段差や障害物でもつまずきます。段差等の解消、滑り止めの設置に併せ、注意表示も念入りに行いましょう。
- 通路や階段の手すりの設置を念入りに行いましょう。手すりの使用を励行しましょう。
- 照明設備による明るさ(照度)の確保や、明暗の差を少なくする対策を講じましょう。
- 体力、筋力の保持・増進を図りましょう。

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください！

「STOP！転倒災害プロジェクト」

STOP！転倒

検索